

1 単元名 かたちあそび

2 単元について

前時（本誌 p105 参照）では、様々な物を用意し、「これより大きい物はどれですか」と子どもたちに問いかけた。子どもたちにとって「大きい」とは、「高い(高さ)」「長い(長さ)」「重い(重さ)」「広い(面積)」「大きい(体積)」などの様々な観点が考えられる。この様々な観点の中から、前時で比較の対象とする観点を明確にすることをねらいとして授業を行っている。

本時では実際に比較を行い、その方法に焦点を当てる。そこで、「どうやって比べたらよいか」を子どもたちに問いかける。

例えば、前時で「長さ」で比較すると定まるとする。子どもたちの前には、前時から手元にあった様々な物がおいてある。それらは、長さで比較することが容易なものだけとは限らない。直方体のような形をした箱があった場合、どこからどこまでを「長さ」として比較するのが曖昧になることが考えられる。また、物の特性によっては、横にしたり、逆さにしたりすることに違和感を覚える物がある。そのような物であっても「長さ」で比べる場合、どのようにして比べたらよいかを子どもたちと一緒に話し合っていく。

第一学年の子どもたちにとって、言葉だけを使って説明することは難しい。比較する動作を繰り返させたり、絵にかかせたりすることで、子どもたちの言葉になる前の「長さ」に対する感覚と、「長さ」や「長い」と言った言葉とを丁寧に結びつけていく。

また、具体物を扱うとき、どのように物を見るのかによって、見え方が異なる。例えば、上からみると円に見えるものが、横からみると長方形に見えるということがある。このとき、円か長方形かということだけでなく、どこから見たのかという情報も大切になる。このような表現の仕方にも触れていきたい。

3 学習指導計画（6時間目／全7時間）

- 第0次 身の周りにある物で遊ぶ。（「えらぶ」の時間に行う。） … 3時間
- 第1次 身の周りにある物を積んだり、転がしたりして遊ぶ。 … 1時間
- 第2次 身の周りにある物を、自分たちで観点を決めて比較する。 …本時2／3時間

4 本時の学習について

(1) 本時のねらい

- ・観点に合わせて、比較の方法を考え、比較することができる。

(2) 予想される本時の展開

主な学習活動と子どもの姿	留意点
<p>1. 手元にある物を確認する。</p> <p>2. 「長さ」を比べる方法を考える。 T どうやって比べたらよいですか。 C こうやって、ここここをくっつけて・・・ C こっちの方が上まできてるから・・・</p> <p>3. 方法の共通点を中心に振りかえる。 T いろいろな方法があったけど、似ているところがありましたか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの素朴で曖昧な表現は、繰り返し表現させることで、徐々に明確にしていく。 ・できるだけ、実物を提示しながら説明するように声をかける。 ・子どもたちから繰り返し出てきた表現や動作を板書する。